

Brooklyn DAC+の活用(13) —MQA-CD 再生時のクロック同期(2)—

1. はじめに

前報(4)に引き続き、MQA-CD 再生時のクロック同期の検討を行います。

2. Brooklyn DAC+の試聴方法

Brooklyn DAC+の導入(7)において MQA のデコードとクロックの設定において MQA のデコードは、BrooklynDAC+のクロックの設定を IN の場合のみ可能で、INT と WCK ではデコードできませんでした。

しかしながら、前報(4)において、クロック入力のあるトランスポートとしてマランツ SA11-S2 を使用し、次のようにクロックの同期を取ることによって MQA のデコードが可能となりました。

【INT のクロック同期】

INT については、Brooklyn DAC+から、トランスポートにクロックを戻して同期を取ることを試みます。即ち、Brooklyn DAC+のクロックの設定を 44.1KHz (INT) に設定して、Brooklyn DAC+のクロック出力を SA11-S2 のクロック入力端子に入力することを行います。

【WCK のクロック同期】

WCK 入力については、クロックディストリビューターを使用して同期を取ってみます。クロックディストリビューターはインフラノイズの CCD-6 を使用し、Brooklyn DAC+のクロックの設定を WCK にして、次のようにクロックの同期を取ります。

GPS-777 (44.1KHz) → CCD-6 → Brooklyn DAC+クロック入力

↘ SA11-S2 クロック入力

また前報(5)では、次のように WCK のクロック同期を、Brooklyn DAC+クロック出力経由でトランスポートに戻すことで取ってみました。

GPS-777(44.1KHz) → Brooklyn DAC+クロック入力

→ Brooklyn DAC+クロック出力 → SA11-S2 クロック入力

以上のような方法で、MQA-CD のデコードが可能となりました。

一方、前報(1)においては、トランスポートに Philips LHH1001 を使用し、Brooklyn DAC+の AES 入力を実施しました。その方法として、クロックレシーバーの CRV-555 を中継器として使用しました。CRV-555 は、クロック入力を受けてクロックを打ち直すものですので、今回は、Brooklyn DAC+クロック出力を CRV-555 に入力することを検討しました。

【INT のクロック同期】

INT については、Brooklyn DAC+から、CRV-555 にクロックを戻して同期を取ることを試みました。即ち、Brooklyn DAC+のクロックの設定を 44.1KHz (INT) に設定して、Brooklyn DAC+のクロック出力を CRV-555 のクロック入力端子に入力することを行いました。

Brooklyn DAC+クロック出力→CRV-555 クロック入力

【WCK のクロック同期】

Brooklyn DAC+に WCK 入力を行い、Brooklyn DAC+クロック出力を CRV-555 クロック入力に戻します。

GPS-777(44.1KHz)→Brooklyn DAC+クロック入力

→Brooklyn DAC+クロック出力→CRV-555 クロック入力

3. Brooklyn DAC+の試聴結果

以上のような二つの方法で、Brooklyn DAC+と CRV-555 のクロックの同期を取ったわけですが、LHH1001 で MQA-CD の再生を行っても、Brooklyn DAC+でのデコードはできませんでした。クロックの同期だけでなく、CRV-555 のクロックの打ち直し自体が、MQA-CD の信号を Brooklyn DAC+に伝えられないためと思われます。結局、現在のところ LHH1001 で MQA-CD の再生を行う場合の MQA のデコードは、前報(1)のように RCA→AES 変換コネクタを中継する方法しかなさそうです。

ちなみに、Brooklyn DAC+のクロックの設定を IN にし、RCA→AES 変換コネクタを中継する方法でデコードを行った場合と、CRV-555 を中継する方法で、CRV-555 に GPS-777 からクロックを入れて、デコードなしで再生した場合の音質を比べてみましたが、なお、それぞれの中継点で、デジタルアキュライザーを装着してみました。





RCA→AES 変換コネクタを中継する方法でデコードを行った場合は、レンジも広がり空間表現もありますが、CRV-555 を中継する方法で、CRV-555 に GPS-777 からクロックを入れて、デコードなしで再生した場合は、あくまで CD の音ですが、クロックの打ち直しとデジタルアキュライザーの効果で、焦点があった緻密な音になっています。

4. まとめ

Brooklyn DAC+のクロックとクロックレシーバーCRV-555 の同期を取る方法では MQA のデコードはできませんでした。

以上